成果の説明書

(氏名)笠見弥生	(学部)経済学部

1　重要事項

【研究】

昨年度に引き続き明末の文人凌濛初による短篇白話小説集『拍案驚奇』及び『二刻拍案驚奇』を対象とする。今年度は新たに科研費「短篇白話小説『拍案驚奇』『二刻拍案驚奇』の編纂過程についての研究」(JSPS20K12948）の助成を受けて主として以下のように研究を進めた。

（1）　凌濛初及びその作品に関する国内外の研究を渉猟し、これまでの研究の傾向及び今後あるべき方向性について再検討を行った。

（2）　凌濛初及び凌氏一族の交友関係を確認するため、前田尊経閣文庫所蔵資料等を中心に資料調査を行った。

（3）　凌濛初「二拍」に関する博士論文提出のため、自身がこれまでに発表した論文を見直し、加筆修正を進めた。

（4）　既刊論文「許容された不義密通 ――凌濛初「二拍」を中心に」(『日本中国学会報』69、単著、2017）を中国語に翻訳し、2021 年中に中国で刊行予定の論文集に投稿した。

【教育】

「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」「日本語リテラシー」「中国古典研究」「中国文化論」を担当した。今年はオンライン授業というイレギュラーな事態となったが、Teams 及び Zoom を活用して授業を行った。

（1）　英語以外の外国語を担当する教員に対し、オンラインで教員同士の情報交換を行う場を設けた。特に今年度はオンライン授業開始にあたり、Zoom 及び Teams を用いた授業方法について、非常勤教員に向けて実際の手法を提示する等情報提供に努めた。

（2）　自身の授業について、中国語Ⅰ及び中国語Ⅱにおいては、Zoom を利用した教員・学生間の双方向コミュニケーション、同ブレイクアウトルームを利用した学生同士の会話練習等を積極的に活用するとともに、音読課題を提出させる等してオンライン授業による不利益が生じないよう工夫した。

（3）　中国古典研究、中国文化論においては、Zoom の画面共有で講義資料を提示して講義を行った。配布資料を印刷せずに授業が行えたため、例年以上に豊富な資料を準備することができた。

対面授業を行うことはできなかったもののオンライン授業ならではのメリットを感じることができ、大過なく授業を終えることができたように思う。

2　その他の事項

2020 年 4 月～　高崎経済大学経済学会理事

2020 年 4 月～　日本中国学会広報委員会幹事　等

3　次年度以降の計画・抱負

【研究】

今年度はコロナウイルス流行の影響を受け、オンライン授業への対応に多くの時間を

割くことになった上、国内外における資料調査も著しく制限される等、環境の変化が大きく、思うような進展が得られなかった。来年度以降は状況が改善し、自由な研究調査が行えることを期待する。

来年度も上記科研費研究課題「短篇白話小説『拍案驚奇』『二刻拍案驚奇』の編纂過程についての研究」が継続予定のため、多方面から検討を加えていきたい。2021 年度中には凌濛初「二拍」について、特に「二拍」に描かれる女性に焦点を当てた博士論文を作成し、提出する予定である。

【教育】

2021 年度は原則対面ながら、一部ハイブリッド形式での授業が予定されている。特に外国語科目では、感染対策のため従来の形式での授業ができない可能性も少なくない。今年度のオンライン授業の経験を活かし、教員同士の連携を強めることでよりスムーズ且つ効果的な授業運営方法を模索していく。

加えて 2021 年度は「中国語文献講読Ⅰ」「中国語文献講読Ⅱ」が新たに担当科目となる。中国語を一年程度学習し、更に継続して学習しようとする意欲のある学生の履修が想定されるため、新聞や雑誌、書籍等、実社会で流通する中国語を自力で読み解ける力を楽しみながら身に付けてもらえるよう工夫していきたい。